

沖縄語の表記における長音の表し方について(3枚)

2007年4月29日

沖縄語研究家 船津好明

沖縄語は長音の多い言語です。その仮名による書き方は現在、様々です。

例えば、[kii] (木) は、「きー」、「きい」、「きい」などが見られます。

「ー」は直前の短音を伸ばすしるしで、基礎単語の語頭と促音のあと以外ならどこでも使えます。漢字の後にも付けられます。

長音の各書法について、学習者が読み書きする場合の長所短所を考えてみます。堪能な人の読み書きについては別とします。書法は、読むためだけでなく、書くため、特に**手で書くのに容易**でなければなりません。沖縄語が発展したとき、手書き困難な書法では将来困ると思います。

上のうち「きい」と、「い」を小書きするのは、活字ではよいとしても、手書きの場合に小書きが徹底せず、大きく書かれて「きい」のようになる傾向があることが実験と調査で知られています。そのため、学習者向けの書法としては難があります。活字は読ませるのが目的ですから、読ませるにはよいのですが、手で書くには前述のような問題があるということです。

それでは、「きー」と「きい」のどちらの書き方が、学習者の読み書きに望ましいでしょうか。理屈は両方とも納得できますが、**結論的に筆者は、学習には「ー」を使うのが単純明解、仮名では複雑煩瑣という見解です。**仮名長音は十分進んだ人向け、文学向けならよいと思います。

以下、実際の書面を参考にしながら、より一般的な見地からそのことを説明します。

1、「ー」の音は、伸ばすべき音によって、自然に a,i,u,e,o,n の6通りのどれかになります。直前の短音と分離することはありません。音を意識せずに短音をそのまま伸ばすだけです。例えば[tootoomee]は「とーとーめー」、[mensjooree]は「めんしょーれー」となります。

2、一方「ー」を用いず仮名で表す場合は、次のように書き方が幾つもあります。例えば、[tootoomee]は「とおとおめえ」、「とうとうめえ」、「とうとうめい」、[mensjooree]は「めんしょおれえ」、「めんしょうれえ」、「めんしょうれい」と書けます。このうち、

(1)「とおとおめえ」、「めんしょおれえ」は言文一致です。言文一致に徹するなら道理に合った書き方ですが、学習者には文字列が長くなると言葉の切れ目が見えにくくなり、短音部分と伸ばしの部分が分離して“ぎなた読み”いわゆる弁慶読みになる

懸念があります。弁慶読みは堪能者には起きません。未熟者に起きます。

(2)「とうとうめえ」、「めんしょうれえ」と書くのは共通語式です。共通語では[tookjoo] (東京)を「とうきょう」と書き、「とおきょお」とは書きません。共通語は言文不一致で、それを沖縄語の読み書きの学習に取り入れるとどうなるかといえば、それなりの書法にはなると思いますが、仲々厄介です。罪は共通語にあります。教える方、教わる方とも大変気を使います。弁慶読みをされる懸念もあります。

(3)「とうとうめい」、「めんしょうれい」も共通語式です。語尾を「めい、れい」と書くのは本来は好ましくありませんが、共通語では実用上[mee、ree]の発音が容認されるため、こういう書き方にも理屈が生まれるわけです。この書き方は(2)よりも更に煩瑣です。

このように、長音を表すのに仮名を2字、3字使うのは、沖縄語がよく出来る人が読むにはよいのですが、学習者には学習負担、教える側にも負担がかかり、厄介なことと思います。現実には、上の書き方が入り交じり、より混迷になっている文献もあります。その煩瑣は、「ー」を用いることで一掃されます。

3、長音の表し方は、印刷のときの校正の難易に大きく関係します。「ー」を使う場合、誤植は少ないのですが、仮名を2字3字組み合わせると誤植を起しやすいたが、その種の既存の文面を観察して分かります。

文章を校正する人は、文面の正誤を判断できる人でなければなりません。その文面の書法に精通した人でなければなりません。校正に未熟であったり、書法が複雑なため正誤の判断が行き届かなかつたりすると、誤植の多発を招く恐れがあります。誤植は読者に大変迷惑です。校正の軽視は禁物です。誤植の皆無を期すためにも、煩瑣な書法は避けたいものです。

4、上記のことを総括する意味で、長音の表し方を次の例を通して考えてみましょう。題材として共通語の「きょうたいはけんかをしています。」を沖縄語にあてはめてみます。学習者向けに、どれが適切と思いますか。

- a. ちよおでえやおおええそおいびいん。
- b. ちょうでえやおうええそういびいん。
- c. ちょうでいやおうえいそういびいん。
- d. ちよおでえやおおええそおいびいん。
- e. ちよーでーやおーえーそーいびーん。

(参考1)

共通語は言文不一致ですが、書き方を義務教育で教わるので、我々は違和感を覚えません。1945年までは甚だしく言文不一致であったため、戦後言文一致にすべく書法の大

改革がなされましたが、一部は不一致のまま残りました。

現在の共通語の表記における言文不一致の例を挙げれば、

- ・[o]の段の短音(お、こ、そ、と、・・・拗音を含む)を伸ばすときは、伸ばす部分を「う」と書き、[o]と発音します。
- ・「は」は助詞の場合[wa]と発音します。
- ・「へ」は助詞の場合[e]と発音します。

ですから、

きょうはとうきょうへいきます。(言文不一致)

× きょおわとおきょおえいきます。(言文一致)

となります。

(参考2)

沖縄語の従来 of 書法は、特に文語をみると、言文不一致が甚だしいため、読み書き自体で既に学問です。新しい書き方では言文一致、特に沖縄語独特の発音については一字一音の形が理想と思いますが、沖縄語は音韻が多様なため、完全な言文一致は至難の業で、強いて行えば却って煩瑣となり、負担を増大させる懸念があります。そのため、例外はやむなしとして、なるべく一字一音の言文一致の方向でという意味で、「言文一致指向」の書法が現実的であると思います。

例えば、「いん」(犬)の「い」と、「すい」(首里)の「い」は別の音ですが、同じ字でよいと思います。この意味では一字2音の言文不一致です。これは単語の語頭だけにかかわる問題です。一方「縁」を「いん」と書くと、「犬」の「いん」と同じになって、本来異なる音で語義にかかわるのに同じ字を用いては支障がでます。この二つの「い」は別の字でなければなりません。

沖縄語の教育は義務教育に入っていないという現実において、子供や学習者に“難しい”と思われるのは普及に不利になります。親しみを覚えてもらうよう細心の注意を払う必要があります。

(以上)

沖縄語に関する船津好明の最近の論文リスト

- ・沖縄語普及の一層の推進について(9枚)2007年3月5日
- ・沖縄語普及協議会の書法の試行結果について(4枚)2007年3月6日
- ・沖縄語の学習のための漢字の使い方の例(5枚)2007年3月28日
- ・沖縄語の中の漢字への振り仮名と送り仮名の例(2枚)2007年4月11日
- ・沖縄語の学習のための漢字について(第1次案)(3枚)2007年4月17日

照会先：〒1870002 東京都小平市花小金井2-6-1 船津好明

Tel/Fax 042-467-1273

Email funatsu@mvf.biglobe.ne.jp